
ある夜の重なった心模様

一河善知鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある夜の重なった心模様

【Nコード】

N2240B

【作者名】

一河善知鳥

【あらすじ】

この気持ちって、とまらない。不安もあるけど、これからには期待も持てればいいな…なんて。そんな始まりの恋模様。

「なーんか、今日は疲れたね。」

「うん。…悪いな、ずっと連れまわしちゃって。」

「別に。気にしてないよ。」

「なら、いいけどさ。」

「それより、よかったじゃん。探してたの見つかった。」

「あ、うん。」

「…意外だったな。まさか、信二君がクラシックを聞くなんで。」

「俺の家族さ、全員、音楽やってるんだ。」

「え、そうなの？」

「それも意外？…姉貴はピアノ。お袋が元ヴァイオリニスト。親父は今、サックス教室開いてる。」

「それで、信二君は？」

「カスターネット。」

「ん？…え？」

「嘘だよ。」

「嘘か。」

「本当は、俺もピアノやってた。」

「ふうん。」

「…興味ねえか。」

「…あたしも。」

「うん？」

「あたしも実はピアノやってた。」

「あ、そうだったんだ。」

「ていうか、ついこの前まではピアニストだった。小さい店とか、ホールとかで発表してたんだ。」

「マジ？」

「マジだよ。ほら、これ見てよ。」

「なにこれ…？」

「いいから見てよ。」

「…新人ピアニスト。長谷川優希…。」

「ね？」

「すごいじゃん。」

「やめたけどね。」

「……。あ、っと、聞かないよ？」

「なんで？」

「辛い過去とかあったら、嫌でしょ？」

「わかってるんだ。じゃあ、こっちも聞かないよ。」

「わかってる。」

「まあ……。それでも、忘れられないんだけどね。」

「わかってる。」

「るーるるるーるるるー、るるるるるー、るーるるるー……」

「……わかってる。」

「やっぱりか。」

「……ねえ、ちよつとこの辺で休まない？」

「んー……。じゃあ、あそこ座ろう？海見えるし！」

「本当だ。」

「…怒ってる？」

「カノンを口ずさんだから？」

「うん。」

「…俺も忘れてない。だからこのCDを買ったっていうね。」

「あ、それもそうだね。」

「海、結構綺麗なんだな。」

「ほんとだね。」

「るーるるるーるるー、るるるるるー…」

「じゃあさ、あたしが今度、久々のリサイタルしちゃうかな？」

「空き地で？」

「ううん。信二君ン家で。あるよね、ピアノ。」

「…いいの？男の家にきたらやることって…」

「一つしかないって？」

「そ。」

「それも、うん。いいよ?」

「そっか。」

「でもさ、ピアノもちよつとは弾かせてよ?」

「どうかな。」

「あたし、そんなに魅力的な人じゃ―…」

「ない…わけない。」

「それ、お世辞?」

「本気。」

「…手、暖かいね。」

「顔、火照ってる。」

「かわいい。」

「うるさいって。」

「ずっと、こうしていたいな。」

「いいムードすぎて、何かなんだかわかんなくなってきた…。」

「だめじゃん。普通、今こそ相手の唇を奪うチャンスだよ?」

「あ、ミスした。」

「もう…。ドラマとか、見ないの？」

「ドラマとか、見ないの。」

「じゃあ、あたし帰る！」

「あ、ちょっと…！」

「う、あ…。」

「…。これで合格？」

「いいと思う。」

「何赤くなってるんだよ。」

「だって、ファーストキス…」

「え？」

「…の思い出した。」

「なんだよ。」

「まさか。」

「そりゃあな。」

「さすがに。」

「…とか言いつつ？」

「しつこい！」

「でも、俺のほうは実はさ…今のが生まれて…」

「数千回目のキスでしょ？」

「うん。」

「あーあ。ミスした。」

「それも、わかってたくせに。」

「…だって、嫌いじゃないし…。」

「ありがとう。」

「え？」

「…俺たぶん。…だいぶ、好き。」

「ん…。ありがとう。」

「え？」

「え？ってなによ。」

「そっちがそう言ったんじゃない。」

「言っていない！」

「言った。」

「…まあ、言ったけど。…だって、信二君にお礼、似合わない。」

「ありがとう。」

「—もう。」

「ありがとう。ありがとう。ありがとう。」

「しつこい人、嫌い。」

「ありが…、うん。」

「かわいい。」

「うるさいって。」

「…じゃあ、そろそろ行こっか？」

「そうだな。」

「どうする？この後。」

「俺に聞く？」

「そればっか？」

「嘘だよ。俺、お前がいればどこでもいい…かも。」

「かつこいい。」

「ロマンチック好みかと思って。」

「本当にかつこいいよ。」

「知ってた。」

「…そーですか。」

「適当に歩くか。駅のほうに向かいつつ。」

「そうだね。」

「なんかいい店とか、あったけなあー。」

「…ねえ？」

「うん？」

「見てるでしょ、ドラマとか。」

「毎週欠かさず。」

「そーいうのさ、いいと思うよ。…。」

「…暑いけど、我慢する。」

「信二、結構腕細いんだね。」

「うるさいって。」

「その言葉、三回目。」

「……いめん。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2240b/>

ある夜の重なった心模様

2010年10月11日15時07分発行